



登米地域の稲作通信 第5号

令和6年7月2日発行
宮城県米づくり推進登米地方本部
宮城県登米農業改良普及センター
Tel: 0220-22-6127



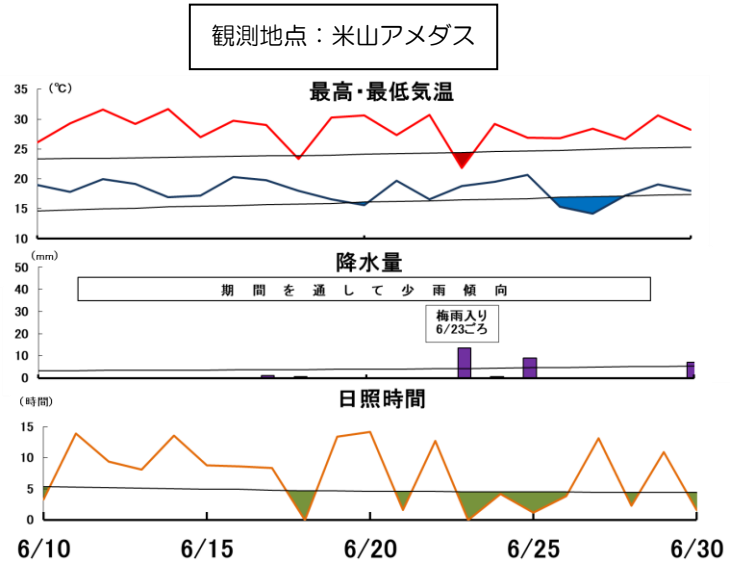
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

【気象経過】

東北部の梅雨入りは平年より 11 日遅い 6 月 23 日頃となりました。

6 月下旬の平均気温は平年よりも 2℃ 高く推移し、降水量は平年比 64%、日照時間は平年比 115%となりました。

6 月はひと月を通して気温が平年よりも高く推移し、また、日照時間は平年比 127%と高温多照となりました。降水量はまとまった雨がりましたが、平年比 81%と雨の少ない月となりました。



【移植栽培】

1 生育状況

【水稻生育調査結果(移植)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	栽植密度(株/m ²)	移植日	6月20日			7月1日		
						草丈(cm)	莖数(本/m ²)	葉色(GM)	草丈(cm)	莖数(本/m ²)	葉色(GM)
1	ひとめぼれ	Cタイプ	中田町	15.9	5月19日	31.3	249.6	40.8	49.8	473.8	40.9
					前年比・差 +5日 平年比・差 +4日	78% 91%	86% 89%	-4.1 -1.1	99% 102%	95% 101%	0.3 -2.0
2	ひとめぼれ	Cタイプ	登米町	16.0	5月16日	34.6	299.2	43.9	53.6	508.8	42.0
					前年比・差 ±0日 平年比・差 ±0日	94% 106%	95% 102%	-0.8 0.7	108% 115%	100% 105%	2.4 -0.9
3	ひとめぼれ (晩期栽培)	-	米山町	20.8	5月29日	20.7	104.0	-	29.4	183.0	38.4
4	ササニシキ	Cタイプ (復活ササニシキ)	豊里町	14.8	5月13日	34.6	279.7	41.4	49.0	458.8	38.9
					前年比・差 +1日 平年比・差 +1日	85% 93%	89% 74%	-0.3 -0.3	100% 102%	87% 83%	-0.2 -1.7
5	つや姫	Cタイプ	迫町	15.3	5月6日	48.4	546.2	37.9	61.3	550.8	36.6
6	だて正夢	-	迫町	19.3	5月14日	41.2	370.6	39.9	58.3	497.9	41.1
					前年比・差 -7日 平年比・差 -1日	119% 109%	155% 95%	-3.1 4.2	120% 107%	94% 93%	-0.8 -3.2
7	金のいぶき	-	登米町	16.5	5月14日	37.0	448.8	45.2	56.3	696.3	39.6
					前年比・差 +5日 平年比・差 +2日	81% 95%	91% 101%	-2.8 0.7	94% 101%	101% 107%	-1.3 -2.7
8	つきあかり	-	豊里町	19.3	5月4日	53.2	370.6	42.5	71.2	378.3	39.2

※栽培タイプ

Cタイプ：農薬・化学肥料節減栽培（慣行栽培の5割減；農薬8成分、化学窒素成分3.5kg以下）

※平年値は、過去5か年（令和元年～令和5年）の平均値。

ただし、金のいぶきは調査4年目のため、過去3か年（令和3年～令和5年）の平均値。

※ひとめぼれ(晩期栽培)、つや姫、つきあかりは調査1年目のため、本年値のみ。

7月1日現在の生育状況は、管内の生育調査ほのひとめぼれについては、草丈、莖数ともに平年を上回って推移していますが、葉色は平年を下回っています。晩期栽培のひとめぼれは、草丈が伸長し、莖数も順調に増加しています。だて正夢は、草丈が平年をやや上回っていますが、莖数、葉色は平年を下回っています。金のいぶきは、草丈が概ね平年並、莖数は平年を上回っています。田植えの早かったつや姫、つきあかり調査ほやひとめぼれ（登米町）も有効莖数を確保しており、中干しの時期に入っています。

2 今後の管理

(1) いもち病対策

＜6月24日発行 宮城県病害虫防除所＞発生予報第4号

葉いもち

発生時期：平年並（発生開始期7月第1半旬：7/1～7/5）

発生量：平年並

- ・巡回調査の結果、発生は確認されなかった。また、残苗の放置率は平年よりやや低く、発病した残苗は確認されなかった。
- ・平均気温が19～25℃、曇りや雨が多いことが発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予報されている。

アメダス資料による葉いもちの感染好適条件の出現状況（BLASTAM）によると、5/20～6/18の間には、管内では感染好適条件及び準好適条件が出現していません。

しかしながら、仙台管区气象台の1か月予報では気温はかなり高く、曇りや雨の日が多い予報となっており、感染好適条件が出やすい環境となる可能性があります。茎数が多く、葉色の濃いほ場は注意しましょう。発病が見られたときには速やかに茎葉散布剤で防除してください（環境保全米で発生がみられた場合はJAにご相談ください）。

(2) 紋枯病対策

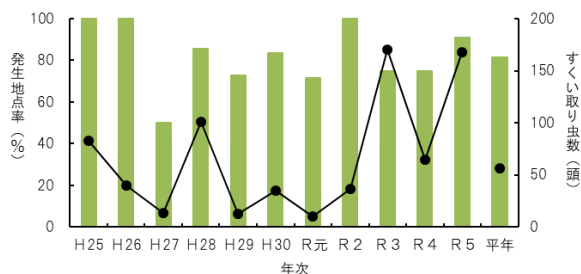
高温年では紋枯病の発生が多くなる傾向があり、昨年は病徴の進展したほ場も多く見られました。昨年発生したほ場では、ほ場に菌が残っており今年も発生することが懸念されます。紋枯病は、倒伏の原因にもなるので、多発が予想されるほ場では、薬剤による防除を行いましょう。

要防除水準（収量が5%以上の減収を想定して防除する場合）は、穂ばらみ期の発病株率が「ひとめぼれ」で18%、「ササニシキ」で10%です。（環境保全米で防除を検討する場合は、JAまでご相談ください）。

(3) 斑点米カメムシ類対策の畦畔除草

令和5年産の県内の草地における斑点米カメムシ類（アカスジミカミカメ）のすくい取り虫数は過去10か年で最も多かった令和3年産米に次いで、多くみられました。また、斑点米カメムシ類の増加に伴い、着色粒の発生も多くなりました。

今年度も、既に水田周辺の雑草でアカスジカスミカメの生息が確認されています。着色粒発生抑制のため、畦畔の除草を行い対策しましょう。

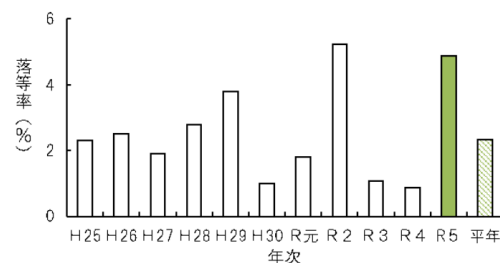


草地におけるアカスジカスミカメ成虫の発生地点率及びすくい取り虫数の年次推移(7月中旬)

※病害虫防除所巡回調査ほ場におけるすくい取り調査

棒グラフ：発生地点率、折れ線グラフ：すくい取り虫数

平年:過去10か年平均



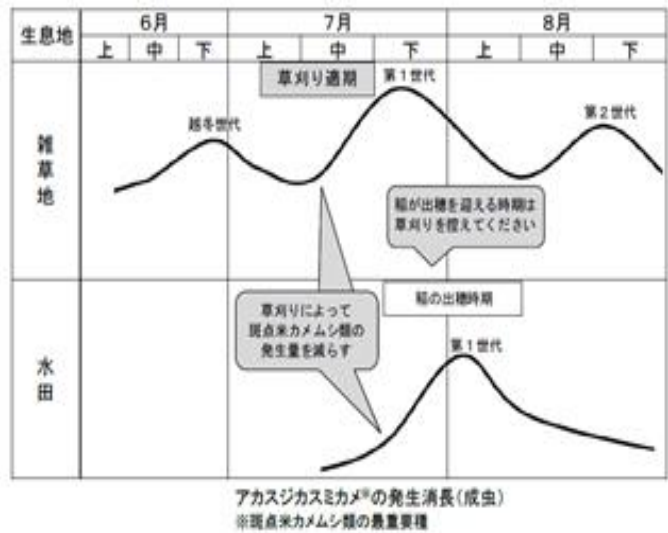
着色粒による落等率の年次推移（宮城県）

※東北農政局公表（確定値、令和5年産は令和5年10月末現在の速報値）による落等率は総検査数量に対する割合

平年:過去10か年平均

イネ科雑草（特にイタリアンライグラス等）の多い畦畔では、斑点米カメムシ類が誘引されて産卵・繁殖する場所となり、斑点米被害につながる可能性が高くなります。アカスジカスミカメ第1世代幼虫の発生ピークとなる7月上～中旬が除草適期となります。計画的に畦畔の除草を行いましょう。

ただし、出穂期前後の草刈りは水田内に斑点米カメムシ類を追い込むこととなりますので、畦畔草刈りは水稻の出穂15～10日前までに終了するようにしましょう。管内の過去5年平均の出穂期は8月1日ですので、遅くとも7月20日ごろまでに草刈りを終了するようにしましょう。



(4) 生育ステージの予測値および今後の水管理

生育ステージの予測値（7月1日現在）

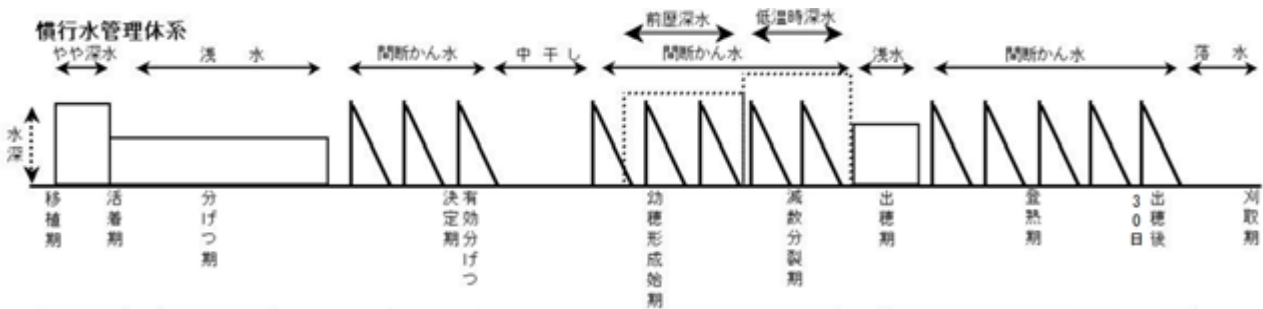
移植日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日
幼穂形成期	6/28～7/2	7/2～7/5	7/5～7/9	7/9～7/12	7/12～7/16
出穂期	7/27～7/30	7/30～8/1	8/1～8/4	8/4～8/7	8/7～8/10

※主稈葉齢予測モデル（普及に移す技術第80号）を用いた予測値。移植時葉齢を2.5葉～3.5葉として予測。平均気温は6月28日までの米山アメダスの実測値。

管内の過去5年平均の出穂期は、8月1日です。

中干しは幼穂形成期（幼穂長1mm程度）までに終了しましょう。

移植時の葉齢を2.5～3.5葉とした生育ステージの予測値を算出しました。管内の田植え盛期は5月12日となっており、5月10日に移植した場合、幼穂形成期は7月2日～7月5日頃、出穂期は7月30日～8月1日頃となる見込みです。



水管理の模式図

(5) 追肥

葉色が低下してきているほ場が見られます。ほ場をよく観察し、追肥の判断をしましょう。

環境保全米で有機質肥料を追肥に用いる場合は、有機質の分解に時間を要するので化学肥料よりも早めに施用しましょう。

環境保全米では、栽培期間中（育苗+本田）に使用する化学肥料の窒素分量が決まっています（合計3.5kg/10a）ので、これまでの施用量を計算して追肥量を決定しましょう。

追肥の施用時期によって、倒伏や玄米タンパク質の増加などの影響があります。適切なタイミングで追肥を行いましょう。

表 生育ステージと生育量の目安

ひとめぼれ	幼穂形成期 7月10日頃	減数分裂期 7月20日頃
草丈(cm)	56~59	66~69
茎数・穂数(本/㎡)	470~530	450~500
葉色(SPAD)	38~40	35~37
追肥窒素量目安(kg/10a)	1	1

ササニシキ	幼穂形成期 7月13日頃	減数分裂期 7月23日頃
草丈(cm)	62~68	-
茎数・穂数(本/㎡)	720~760	550~580
葉色(SPAD)	34~36	32~34
追肥窒素量目安(kg/10a)	-	1~1.5

だて正夢	幼穂形成期 7月15日頃	減数分裂期 7月25日頃
草丈(cm)	64~70	76~82
茎数・穂数(本/㎡)	390~460	380~420
葉色(SPAD)	40~42	37~39
追肥窒素量目安(kg/10a)	-	2

金のいぶき	幼穂形成期 7月15日頃	減数分裂期 7月25日頃
草丈(cm)	65~70	80~85
茎数・穂数(本/㎡)	570~620	490~540
葉色(SPAD)	33~35	30~32
追肥窒素量目安(kg/10a)	1	1

つや姫	幼穂形成期 7月16日頃
草丈(cm)	70~75
茎数・穂数(本/㎡)	550~580
葉色(SPAD)	35~37
追肥窒素量目安(kg/10a)	2

※幼穂形成期、減数分裂期の目安日は宮城の主要奨励品種の栽培ごよみに記載の日付です。

穂肥窒素の施用時期と生産要因への影響

		生産要因への影響					
		穂数の増加	1穂穎花数の増加	1穂穎花数の減少防止	登熟の良化	下位節間の伸長と倒伏	玄米タンパク質増加
施用時期	幼穂形成期	○	◎	○		×	
	減数分裂期		○	◎	◎		
	穂首分化期	○	○		×	××	
	穂揃期				○		×

◎ 効果高い, ○ 効果あり, × 悪影響あり, ×× 悪影響強い

【直播栽培】

1 生育状況

【水稻生育調査結果(乾田直播)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	播種月日	苗立ち本数(本/㎡)	6月20日			7月1日		
						草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉色(GM)	草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉色(GM)
1	ササニシキ	プラウ耕 グレートリル 体系	米山町	4月26日	79.1	36.5	310.7	34.9	46.1	448.6	36.7
				前年比・差	70%	119%	333%	-2.5	136%	174%	-1.0
				平年比・差	103%	109%	217%	-2.1	118%	134%	-1.0

※ササニシキは調査4年目のため過去3か年の平均値を使用。

7月1日現在、管内の生育調査ほのササニシキは草丈、茎数は平年を大きく上回り推移しています。葉色は平年をやや下回っていますが順調に生育しています。

2 今後の管理

(1) 生育状況に応じた水管理

乾田直播では播種時の鎮圧によりほ場が固いので、収穫機械作業に支障がないことから、中干しは不要です。ただし、播種深度が浅く、根の支持力が弱い場合は、中干しを行います。

(2) いもち病対策 ~天候や品種によっては多発することもあります。発生に注意!!!~

予防防除を行った場合でも、発病が見られたときは茎葉散布剤で速やかに防除してください。

(3) 追 肥

葉色の低下が見られたら、つなぎ肥を実施しましょう。